

2018年 11月15日 市民タイムス「模擬議会」

ヨイ42

昭和46年(1971年)10月1日創刊 (第3種郵便物認可)

が松本秀峰中等教育学校の3年生約80人が14日、松本市役所の議場を使って模擬議会を開いた。生徒たちは議員役として質問するだけでなく、答弁する行政側の役割も務め、校内のさまざまな課題を取り上げて討論し、体験を通じて議会制民主主義への理解を深めた。市議会事務局によると、子供が市長らに質問する「子ども議会」はこれまでも行われているが、議員側と行政側の双方を体験するよう踏み込んだ形は「過去に例がない」という。(小岩井貴之)

# 秀峰3年生 模擬議会

り、若い世代の市政への関心を高めようと、市選挙管理委員会が学校に議会見学などを呼び掛けたところ、同校が社会科の授業の一環で模擬議会を企画した。生徒たちは議会の役割や仕組みについて事前に学習し、質問主意書や答弁書も作成して、『本番』に臨んだ。長を取り上げた議員役

議題は、校内BGM

文化祭のグラウンド活用や後夜祭の時間延長を取り上げた。

全教室への加湿器導入、授業の合間の携帯電話使用許可など、日々の学校生活や行事で課題とを考えていることを取り上げた。生徒会の各委員らが行政側に取り上げた疑問や要望に答えた。

の羽田旺将君（15）は、「一対」ではなく、公開の場で率直に意見を割はとても大切だと感やりとりして（課題を）共有する議会の役割はとても大切だと感



松本市役所の議場で開かれた模擬議会で質疑応答する生徒たち

じた」と話し、議長役の内沢一颯さん（15）は「準備は大変だが、一人一人が意見を交わせられる議会はやはり必要」と実感していた。

市議会事務局によると、平成6年と9年に市長らが中小学生の質問に回答する「子ども議会」が催された。市議会は今年5月、子供向けの広報紙「こどもだより」を初めて発行するなど啓発に力を入れており、市川英治事務局長は「模擬議会は市議会の役割を知る良い取り組み。若者がもつと市政への関心を持つてくれればうれしい」と話していた。